

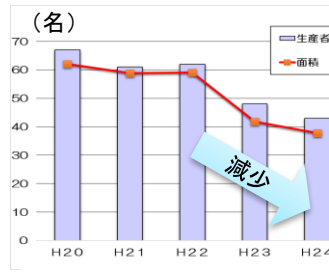
ミニトマト産地の維持・拡大に向けて

1 背景・ねらい

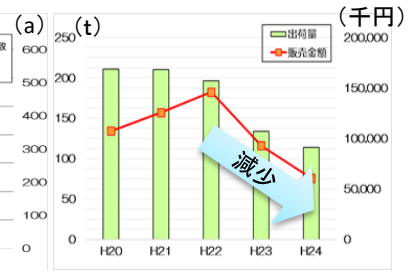
県北農林事務所農業振興普及部

背景

- ・当地域のミニトマト栽培は、昭和58年に川俣町、福島市飯野町で開始された。
- ・生産者3名で始まり徐々に増加したが、平成24年時点での生産者数は震災前の22年から19名減少し、43名となった。
- ・生産者の平均年齢は高く、大半は後継者がいない。
- ・震災を機に川俣町山木屋地区の9名は全員休止、飯舘村の農業者が当管内へ避難。



【生産者と面積の推移】



【出荷量と販売金額の推移】

【課題】

- ・高齢農業者に必要な技術の選定・普及
- ・産地維持のため新規栽培者の確保

ねらい



【活動方針】

- ① 省力的かつ長期安定生産可能な新品種の導入
- ② 高温対策
- ③ 新規栽培者の確保



労力負担を
高めることなく、
出荷期間の長期化
+
産地基盤の
維持・拡大

2 活動内容

特に効果的
だった活動

優良品種導入

H25 26 27 28 29 30 R1 2

新品種の試作・
試験ほの設置

優良品種と既存品種の比較調査
品種特性に基づく栽培技術の普及

新たな
省力型
品種の
試作

全生産者に対する
調査報告会開催

高温対策

試験ほの設置・
遮熱シート導入推進

助成事業の活用支援・遮熱シート導入推進

アンケート調査
による実態把握

労力負担の少ない
高温対策の検討

担い手確保

被災12市町村農業者支援事業の活用提案による
ハウス増棟、新設支援

避難農業者・遊休ハウスの
リスト化、情報提供

個別
意向確認

農地中間管理機構と連
携した農地の貸借支援

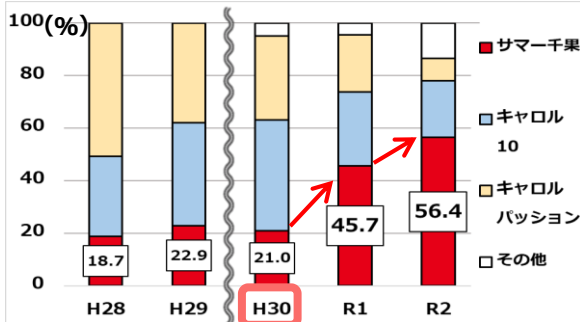


3 活動成果

優良品種の導入

(1) 優良品種の面積拡大

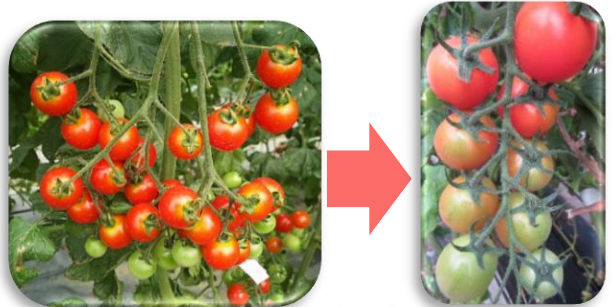
- ・優良品種として選抜された「サマー千果」は、既存品種より花数が少ないが、果実は大きく収穫が楽！ 斑点病、葉かび病にかなり強い。
- ・H30年にJAへ調査報告会開催を提案し、生産者全体へ周知後、大きく増加。



【品種構成割合の変化】

- (2) 優良品種の全面切換による単収向上
・既存品種から「サマー千果」に全面切換した生産者3名の単収は大きく向上。

既存品種 約3.4t/10a → サマー千果 約**5.6t/10a**
単収向上



既存

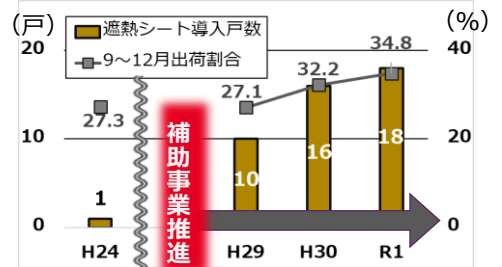
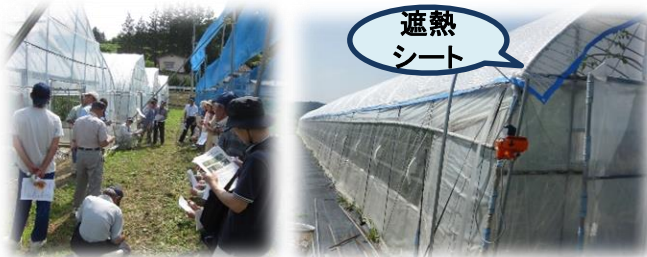
キャロル 10

優良

サマー千果

高温対策の実施

- ・JA全農福島の助成事業の活用を提案した結果、導入戸数が増加。遮熱シート導入に伴い、秋季の出荷割合が増加傾向。



【遮熱シートの導入者数と9月以降出荷割合】

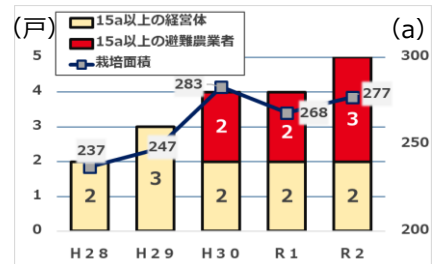
新たな担い手の確保

- ・遊休ハウスリストの情報提供により、R1年は新規1名を確保。JAと連携した避難農業者個別巡回や農地中間管理機構と連携した農地の貸借支援によって4名が管内で営農再開となった。

営農再開内訳

川俣町1名、飯舘村3名

4名中3名が15a以上の経営体となり、
産地の栽培面積を大きく支える担い手に！



【15a以上の経営体数の累計】

4 今後の活動・方向性

さらなる栽培省力化・担い手確保を目指して

- ・省力型の新品種「キャロルムーン」と「サマー千果」の比較調査
- ・遮熱シートの被覆・除去を行う共同作業体制の検討
- ・新規栽培者説明会における作付誘導

